

## 連続講座「国民教育からの脱出」

### 第1回 「国民をつくる教育」 - 国家による国民形成の理論 -

2002年5月11日 山下恒生

#### 1. グローバリゼーションの進展 - 時代認識

- ・ヒト、モノ、カネ、サービスが国境を越えて自由に移動する
- ・社会のどの分野がグローバル化しているか

経済 - 金融、貿易、生産（市場の統合）、国民経済は？

情報 - コミュニケーション、技術

文化 - マクドナルド現象、スポーツ

政治 - 国民国家と政府；国家間機構あるいは超国家機構（EUなど）；その混合体

vs グローバル・ガバナンス（NGOなど非国家主体を含む）

vs リージョナル・ガバナンス

#### ・グローバリゼーションの定義

類似と相違

インターナショナル	international	国際
インターステイト	interstate	国家間
マルチナショナル	multinational	多国籍
トランスナショナル	transnational	越境的
スーパーナショナル	supernational	超国家
グローバリゼーション	globalization	地球規模
リージョナリゼーション	regionalization	地域規模
EU, NAFTA	超国家機構	( Committee of the regions)
APEC, G8, OECD, WTO	国家間機構	
IMF, WB	国際機構	
米欧日3極委員会, MontPelerin,	秘密クラブ	

Giddens（社会学者「第3の道」著者）による定義

「ある場所で生じたこと事象が＜国境線を越えて＞はるか遠く離れたところで生じた事件によって方向付けられたり、逆に、ある場所で生じた事件が＜国境線越えて＞はるか遠く離れたところで生ずる事象を方向付けていくというかたちで、遠く隔たった地域を相互に結びつけていく、そうした世界規模の社会関係が強まっていくこと」

#### ・グローバリゼーションの史的展開

宗教の普及

大航海時代 - 15世紀

第1次大戦前夜

20世紀終わり

A・Gフランク - 5000年周期説グローバル・エコノミー

- ・今日のグローバリゼーションをもたらしたものの  
経済のグローバル化から始まった

70年代に米・欧資本の相互浸透

80年代 - レーガノミックス (国内赤字の解消政策としての経済自由化)

90年代 - 冷戦終焉とともに国境の壁も崩壊 - 自由競争激化 (19世紀のアメリカ)

生産過程に入り込めない資本 - 投資へ

ニューエコノミーを支える国民意識 (自己防衛としての投資 - 貯蓄)

・グローバル経済と国民生活の変化

先進国労働者の相対的貧困化 (福祉国家政策の破綻)

発展途上国の貧困ライン以下層の減少

移民あるいは労働移動

・グローバリゼーションの影響と反応

貧富・不平等の拡大

国民国家の反応 - ナショナリズムの危機

リージョンの覚醒

2. 文部科学省 - 日本国家のグローバリゼーションへの対応

・ユネスコ共同学校計画 (1950年代) - 国家を基礎単位とする国際社会理解

・ユネスコ74年勧告 (1974年) - グローバルな視点による国際理解

・中教審74年答申 - 「国際社会で積極的に活躍できる日本人の育成」

・臨教審87年最終答申 - 国際的視野の中で日本文化の個性を主張、日本人として国を愛する心をもつ、多様な異文化理解のための国際コミュニケーション能力

・中教審96年答申 - 国際理解のためにも、日本人として、また、個人としての自己の確立をはかる

・2000年文部科学省による「教育基本計画策定について」「新しい時代にふさわしい教育基本法の在り方について」中教審への諮問

- 国家百年の計たる教育の振興、

- 伝統・文化の尊重など国家、社会の形成者として必要な資質の育成 - - - 国際化が進展する社会の中であって、日本人としての自覚を持ちつつ人類に貢献するということから、我が国の伝統、文化など次代の日本人に継承すべきものを尊重、発展させていく必要がある

・学習指導要領

小学校社会6年目標 - 我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てる

中学校社会地理 - 日本や世界の地理的事象への関心、我が国の国土に対する認識養う

〃 歴史 - (1)歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

(3)歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国

と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。

高校世界史B - 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

“( 89年版) - 現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解させ、文化の多様性・複合性や相互交流を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

・グローバル化に対して、日本国家に基盤を起いて国際社会を生き抜く日本人育成 = 国民形成をめざす

### 3. 国民国家（近代国家）とグローバル化

- 国民国家の歴史的役割とその終焉 -

< 建設期 > 15世紀～18世紀

・15世紀ヨーロッパに誕生

地理的条件（E・ジョーンズ）

肥沃な耕地を含む土地が散在し、この土地が「中核地域」となって国家が形成  
中核地域をとりまく森林が広大で、諸国家を分離（森林と荒野の海に浮ぶ人間の島）  
中核地域は他の中核地域を吸収していくが、自然環境条件が壁となり、それ以上は進まなかった 国民国家の大きさが決まった

「戦争が国家をつくり、国家が戦争をつくった」（Tilly）

危機に直面して「主権」の形成（Hardt and Negri）

疫病、災害、侵略

社会的要因

人口増加局面（経済成長） 保有地需要増大 土地所有者の収入増

国王等による荒蕪地の開墾と市街地建設

経済的要因 - 資本主義経済との相互連関

度量衡、コミュニケーション手段としての言葉、産業インフラ、法秩序（Hill）

13世紀ヨーロッパ商人は国民国家をもとめず（都市国家）（Tilly）

資本主義経済からの安定した税収入で暴力独占が容易になったため、国民国家は帝国や都市国家に勝った（Tilly）

産業資本主義が中央集権的国家をもとめた（ゲルナー）

資本主義世界経済の上部構造としての国家間システム（ウォーラステイン）

「見える手」による資本主義発展 - 海賊と輸送費コスト - （Pomeranz）

## 技術的要因

軍事技術の変化が国家の最適規模を拡大して、1,500 年頃に国民国家を誕生させた  
大砲の改良と築城技術の進展（15世紀～17世紀）

築城費用の増大 国王に築城集中、公国・王族公領の減少、中央集権化へ

### ・国民国家の定義（特徴）

領土性、中央集権、特有の政府、暴力独占 + 国民形成（Tilly）

領土、主権、国民的アイデンティティを共有する国家（木畑洋一）

主権、統合装置（イデオロギー装置）、国家間システム（西川長夫）

### <成長期> 19世紀

#### ・暴力独占への国民参加・国民形成

傭兵から国民の徴集はアメリカ独立戦争後 - 18世紀末（Tilly）

軍隊と警察の分離

国民国家の帝国主義化と戦争による国民形成（第1次大戦の総力戦）

戦争の原因 - 戦争の40%は行き違いから起きた（Czempiel）

#### ・暴力独占だけによる支配の不十分性 国民形成

「中央による支配、文化の標準化、民衆の政治参加、広範な再配分」（Rokkan）

国語の創造、普通教育、参政権、インフラ整備（郵便制度・水・電気等）

参考 - 西川長夫(1994)「国民統合の前提と諸要素」

39 II 一八世紀 フランス

### 国民統合の前提と諸要素

- |                                                        |       |
|--------------------------------------------------------|-------|
| (1) 一交通（コミュニケーション）網，土地制度，租税，貨幣一度量衡の統一，市場……植民地          | ←経済統合 |
| (2) 一憲法，国民議会，（集権的）政府一地方自治体（県），裁判所，警察一刑務所，軍隊（国民軍，徴兵制）   | ←国家統合 |
| (3) 一戸籍一家族，学校一教会（寺社），博物館，劇場，政党，新聞（ジャーナリズム）             | ←国民統合 |
| (4) 一国民的なさまざまなシンボル，モットー，誓約，国旗，国歌，暦，国語，文学，芸術，建築，修史，地誌編纂 | ←文化統合 |
| (5) 一市民（国家）宗教一祭典（新しい宗教の創出—Michelet，伝統の創出—Hobsbawm）     |       |

#### ・国民アイデンティティ = ナショナリズム形成

国家が先あって、ナショナリズムがつくられた（Hobsbawm）

「伝統が創造された」（ホブズボウム） - 国旗・国歌・天皇制

想像の共同体（B・アンダーソン）

「公定ナショナリズム」としての日本 「国体ナショナリズム」（姜尚中）

エスニシティによらない国民形成（A・スミス）

文化的同質性は国民国家形成コストを低くする（Tilly）

ナショナリズムの身体化（西川長夫）

- ・中央集権と地方統合

フランス革命とリージョナリズム (Gooch)

第3世界ナショナリズム - 植民地からの国民国家形成はナショナリズムが先 (Hardt and Negri)

<完成期> 20世紀

社会権の誕生、福祉国家 社会主義「国家」

<衰退期> 21世紀

- ・グローバリゼーションによる国民国家の退場

建設期から成長期に至る「問題解決」単位としての機能喪失

分析単位は国民国家ではない (ウォーラステイン)

ラクラウ・フランク論争

- ・国民国家に代わる政治単位

グローバル・ガバナンス、Empire (Hardt and Negri)

リージョナル・ガバナンス

マルチ・レベル・ガバナンス - EU (Rosenau)

<グローバリゼーションによって国民国家は強化されている>

「グローバル化は、ユニラテラルな管理がより困難になったという意味において、国家がこうした合意を達成する誘因を高めたのであって、国際法の観点からすると、国家主権は弱体化するどころか、より強固になったと言うべきであろう」(クラズナー)

#### 4. 国民形成における教育の役割

- ・義務教育の発達 (19世紀後半 ~ 20世紀)

イギリス 1880年教育法で義務教育化

フランス 1882年「就学の義務化」法

アメリカ - 州ごとによる (別表参照)

フィリピン 1901年アメリカ占領下で義務教育開始

日本 1873年学制

- ・国民の育成

国民に統合 (中枢による周辺の統合 - 統合であって吸収ではない) - 国語の普及

有力リージョンのナショナルライゼーション説

階級 (階層) の教育ではない - 階級教育は国民教育と別の手段

左翼陣営 (マルクス主義者) も国民統合 = 中央集権に賛成 - 社会主義権力樹立のため

国民国家の形成者育成 - 代議制民主主義の実験

## 5 . 国民教育からの脱出

- ・ 人類が当面している課題は、グローバルであり、国民国家の枠組みでは解決できない
- ・ 国民国家が問題解決（危機脱出）の政治単位でなくなっているとすれば、国民を形成する教育は意味をなさない。むしろ、問題解決を遅らせる役割を果たす。

濱下武志 「国学からの脱却」

現在の学問体系が国学になっており、国家や民族を相対化する方法としての地域論・地域研究を検討する必要性を以下のように説明している(濱下, 1997, p.17-18)。

「19世紀から20世紀にかけての学問論および学問の体系は、国家を形成するという課題にそって集中的につくりあげられてきた。」

「近代ヨーロッパの学問体系は 政治学であれ経済学であれ社会学であれ、さらには文学であれ、国家と国民を問題とする学問として、国家を支える人材を養成する専門知識の分類学として形づくられてきた。そして日本においてもそれにしたがったのであるが、それは広い意味では『国学』という特徴を持った限定的な学問であったといえる。」

「国民国家の枠をすでにこえてさまざまに複合的な地域関係がつくりだされていることである。したがって、国学ともいえる国家をめぐる学問体系が今後いっそう後景に退き、従来の学問分野の組みかえのみならず、知識の内容そのものが問われている。」

ウォーラステイン(1993) - 「ユートピア学」 world-system

- 現在の社会科学が、1国に基礎をおく、国家の政策に役立つ学問となった  
アルバート・バーゲセン「グローバル学」

A・Gフランク - 「ホーリスティックな理論」(国際に替わる用語系)(人間中心的から生態系中心的へ) world system

- ・ 「グローバル教育からの提案」(2002年, 浅野誠+デイヴィッド・セルビー編、日本評論社)

「21世紀地球市民の育成」(魚住忠久・深草正博編、黎明書房)

- ・ リージョナル教育への誘い

表、アメリカ各州の合衆国への編入年および女性参政権承認年

東北部	編入	女性参政権	南部	編入	女性参政権
ニューハンプシャー マサチューセッツ ロードアイランド コネチカット ニューヨーク ニュージャージー ペンシルベニア バーモント メイン	1791 1820	1918	デラウェア メリーランド バージニア ノースカロライナ サウスカロライナ ジョージア ケンタッキー テネシー ルイジアナ ミシシッピ アラバマ アーカンソー テキサス ウエストバージニア オクラホマ	1792 1796 1812 1817 1819 1836 1845 1863 1907	
中西部			西部		
オハイオ インディアナ イリノイ ミズーリ ミシガン アイオワ ウィスコンシン ミネソタ カンザス ネブラスカ ノースダコタ サウスダコタ	1803 1816 1818 1821 1837 1846 1848 1858 1861 1867 1889 1889	1916 1918 1913	ワシントン オレゴン カリフォルニア アイダホ ネバダ モンタナ ワイオミング ユタ アリゾナ コロラド ニューメキシコ	1889 1859 1850 1890 1864 1889 1890 1896 1912 1876 1912	1911 1913 1911 1897 1914 1914 1869 1870 1913 1893
その他					
アラスカ ハワイ	1959 1959				

編入欄が空白は合衆国建国時の13植民州、女性参政権欄が空白は1920年の憲法修正19条によって得た州、太字の州は北東部・中西部研究所 Northeast-Midwest Institute 参加の州、斜字の州は南部経済成長政策評議会 Southern GrowthPoliticalBorad 参加の州

【出典参考】 *The Statistical History of the United States, From Colonial Times to the Present*, United States Bureau of Census, New York, 1970 (アメリカ合衆国商務省編「アメリカ歴史統計：植民地時代 - 1970年」、斉藤眞、鳥居泰彦翻訳監修、原書房、1986年)

## 参考文献

- ウォーラーstein, I (1987), 『資本主義世界経済 - 中核と周辺の不平等 - 』(藤瀬浩司・麻沼賢彦・金井雄一訳), 名古屋大学出版会
- (1991), 『世界経済の政治学』, (田中治男・伊豫谷登士翁・内藤俊雄訳), 同文館出版株式会社
- (1993), 『脱 = 社会科学 19世紀パラダイムの限界』(本多健吉・高橋章監訳), 藤原書店
- (2001), 『新しい学 21世紀の脱 = 社会学』(山下範久訳), 藤原書店
- 遠藤輝明 (1992), 「資本主義の発達と『工場/都市』 - ル・クルーゾによる『工場の規律』と労使関係」(遠藤輝明編『地域と国家 - フランスレジヨナリズムの研究』), 日本経済評論社
- 姜尚中(2001), 『ナショナリズム』, 岩波書店
- 木畑洋一(1994), 「世界史の構造と国民国家」(歴史学研究会編『国民国家を問う』, 青木書店
- クラズナー, S (2001), 「グローバリゼーション論批判(河野勝訳)」(渡辺昭夫、土山實男編『グローバル・ガバナンス: 政府なき秩序の模索』), 東京大学出版会
- ゲルナー, A. (2000), 『民族とナショナリズム』(加藤節監訳), 岩波書店
- スミス, A (1999), 『ネイションとエスニシティ』(柴山靖司・高城和義訳), 名古屋大学出版会
- 田中克彦 (1981), 『ことばと国家』, 岩波新書
- 西川長夫 (1994), 「18世紀フランス」(歴史学研究会編『国民国家を問う』), 青木書店
- (1998), 『国民国家論の射程』, 柏書房
- 濱下武志 (1997), 「歴史研究と地域研究 - 歴史にあらわれた地域空間」(濱下武志・辛島昇編『地域の世界史第1巻: 地域史とは何か』), 山川出版社
- フランク, A.G. (2000), 『リオリエント - アジア時代のグローバル・エコノミー』(山下範久訳), 藤原書店
- ホブズボウム, E (1992), 『創られた伝統』(前川啓治訳), 紀伊國屋書店
- マンデル, E (1972), 『現代資本主義の抗争』(石塚昭彦・鬼塚豊吉訳), 東洋経済新報社
- ラクラウ, E (1985), 『資本主義・ファシズム・ポピュリズム - マルクス主義理論における政治とイデオロギー - 』(横越栄一監訳), 柘植書房
- Anderson, B. (1991), *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism, revised edition*, London, Verso (白石さや・白石隆訳『増補想像の共同体 - ナショナリズムの起源と流行』, NTT出版)
- Czempiel, E. (1992), Governance and Democritization, in J. Rosenau and E. Czempiel (eds), *Governance Without Government: Order and Change in World Politics*, New York, Cambridge University Press
- Gooch, R. K. (1931), *Regionalism in France*, New York, The Century Co.
- Hill, C. (1967), *Reformation to Industrial Revolution*, London, Weidenfeld & Nicolson (浜林政夫訳『宗教革命から産業革命へ』, 未来社)
- Hardt M. and Negri, A. (2000), *Empire*, Cambridge, Harvard University Press



- Hobsbawm E. J. (1990), *Nations and nationalism since 1780: progame, myth, reality*, New York, Cambridge University Press
- Jones, E. L. (1987), *The European Miracle: Environments, economies and geopolitics in the history of Europe and Asia, second edition*, Cambridge, Cambridge University Press (安元稔・脇村孝平訳『ヨーロッパの奇跡：環境・経済・地政の比較史』, 名古屋大学出版会)
- Pomeranz, K. (2000), *The Great Divergence: China, Europe, and The Making of The Modern World Economy*, New Jersey, Princeton University Press
- Rosenau, J. N. (1992), Governance, order, and change in world politics, in J. Rosenau and E. Czempiel (eds), *Governance Without Government: Order and Change in World Politics*, New York, Cambridge University Press
- Tilly, C. (1975), Reflections on the History of European State-Making, in C. Tilly (ed.), *The Formation of National States in Western Europe*, Princeton, Princeton University Press
- (1990), *Coercion, Capital, and European States, AD990-1990*, Massachusetts, > Basil Blackwell Inc.
- Wallerstein, I. (1974), *The Modern World-system : Capitalist Agriculture and the Origins of the European World-Economy in the Sixteenth Century*, New York, Academic Press (川北稔訳『近代世界システム - 農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立 - 』, 岩波現代選書)